



学校だより 第10号

菩

提

樹

平成28年2月

高岡市立東五位小学校



脳が喜ぶこと やっていますか？

校長 吉田 茂

皆さんは、世界的な脳医学者：林 成之先生をご存じですか？北京オリンピックの競泳日本代表チームに招かれ、「勝つための脳」を講義し、メダル獲得に大きく貢献された方です。昨年、縁あってご講演を拝聴したのですが、脳科学をたいへん分かりやすく興味深く説明していただきました。また、ご出身がなんと富山県だと知ってますます親しみを覚え、図書も購入して脳科学と教育の関わりについて読み進めているところです。

林先生は、脳科学の視点から「**脳素質を磨く10の条件**」を紹介しています。

No.	▲ 脳 に 悪 い 習 慣	◎ 脳 が 喜 ぶ 習 慣
①	先生が好きになれない	先生を好きになる
②	「だいたいできた」と途中でやめる	「だいたいできた」の考えをやめる
③	「まあ、いいか」とあいまいにする	最後まできちとした考えを大切にする
④	途中で違うことを考える	やり出したらそれに集中する
⑤	「無理・できない」の否定語が多い	「無理・できない」の否定語を言わない
⑥	自分の欠点、弱点をごまかす	自分をうそでごまかさない
⑦	興味をもたない・感動がうすい	何事にも「気持ち」を込める
⑧	損得抜きに全力投球しない	素直に全力投球する
⑨	「後で…」と後回しにする	「今しよう」を基本に行動する
⑩	言われないとしない	自分から進んでやる

一人一人が生まれもった素質に差があるのは当たり前ですが、ものの考え方や習慣によって、素質の生かされ方・磨かれ方にたいへん大きな差が生じることが分かり驚きました。

②や③の「まあ、いいか」「だいたいできた」と、中途半端で終わらせてしまったり、⑤の「無理！、できない！」と、やる前から否定語を口にしたりする習慣は、脳が喜ばず、自分の可能性を大きく狭めることになることも分かりました。

私が特に注目したのは、⑩の「言われないとしない」→「**自分から進んでやる**」です。林先生によると、人間の脳は、7～10歳にかけて**自主性**が大きく伸びる時期を迎えるそうです。「自分で考えたことを、自分の力で成し遂げること」が脳にとって「ごほうび」になり、その後の達成能力が格段に変わるそうです。ですから、親や教師が頑張りすぎて、効率を優先し「こうしなさい・ああしなさい」と先回りした子育てや教育をしていると、「言われないとしない」「言われたことだけをこなす」「困難にぶつかると避ける」子供が増えると、警鐘を鳴らしているのです。

東五位小学校では、重点目標に「**自分から**」を合い言葉に、子供たちの活動意欲を高め、最後までやり遂げる力を育てようと、日々取り組んでいます。このことは、脳科学の視点からはっきりと裏付けられることが分かり、今後も大切にする必要があると確信しました。今後も子供たちが目的をもって頑張り続ける場を設定し、取組の結果を共に喜んだり、悩んだりしながら確実な実践を重ねていきたいと思ひます。